

がん専門医に関する検討についての要望書

がん対策推進協議会 会長
門田 守人 殿

日頃より日本がん治療認定医機構 (Japanese Board of Cancer Therapy) の活動にご助力とご支援を賜り誠に有り難うございます。

がんは1981年以降、日本人の死亡原因の第1位であり、生涯のうちに約2人に1人ががんに罹患するとされている現在、がん対策は国民の健康・福祉の向上のための大きな課題であります。平成18年のがん対策基本法に基づき、がん対策推進協議会では「がん対策推進基本計画」を策定され、がん診療拠点病院の整備や地域がん登録の充実などの成果を上げてこられました。さらに、平成24年3月の変更案では、新たに「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を全体目標に組み込まれ、分野別施策の個別目標として、「がん患者にとって分かりやすく提示できる体制の整備」と「がん診療に携わる専門医のあり方の整理」をあげられています。これらの目標は、高齢化社会における患者の視点に立った、分かりやすいがん診療体制の構築を目指されたものと思われま

す。一方、日本専門医制評価・認定機構でも、各関連学会と連携して、国民や社会の信頼が得られる、患者に分かりやすい専門医制度の確立を目指して検討を重ねておられます。しかし、平成24年8月31日の「専門医の在り方に関する検討会 (中間まとめ)」では、基本領域およびサブスペシャリティー領域の多くの診療科ががんを扱っているにもかかわらず、がん診療に関する専門性や資格については言及されておりました。

日本がん治療認定医機構では、がん診療に携わる医師・歯科医師のがんに関する基盤的な幅広い知識や技術の取得を検証する事業を、診療科横断的に行ってまいりました。やはり横断的な領域である「総合診療科 (仮)」の在り方が検討されたことも踏まえて、本機構としては「がん専門医」についても検討されるべきと考えます。

現在、日本専門医制評価・認定機構に、「がん専門医のあり方に関するWG (仮称)」を設置いただくことを要望しております。つきましては、がん対策推進協議会においても、本件に関してご支援いただけますようお願い申し上げます。

以上ご高配の段なにとぞよろしくお願い申し上げます。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

平成24年 12月 26日

一般社団法人日本がん治療認定医機構

理事長 平岡 真寛

